

[特許庁委託事業]

中国における商標類比判断の事例・傾向に
関する調査報告書

2012年3月

日本貿易振興機構上海事務所

知識産権部

JETRO

はじめに

近年、中国内の模倣行為は巧妙化が進み、同一商標を使用したいいわゆるデッドコピー品が減少する一方、権利侵害認定を困難にする目的で類似商標を用いるケースが増加している。中国の知的財産権法執行部門（税関、工商行政管理局等）では、こうした類似商標の認定に苦慮しており、認定に資する情報ニーズが高い。この点、日系企業（権利者）も類似商標案件対応の円滑化のため、同様のニーズを有している。そこで、中国における商標類比判断の判例を収集し、判決の傾向を把握し、関連主体に提供することを目的として、本調査を実施することとなった。

本調査報告書は5つのセクションから構成されている。第1章では、商標類比判断に関する法律規定（商標法、司法解釈および審査・審理基準など）を収集・整理している。第2章では、2007年以降の商標権の権利確定における商標類比判断の事例（20事例）と商標権侵害訴訟における商標類比判断の事例（30事例）を紹介している。また、第3章では、よくある類似商標のパターン（分類）を整理してまとめている。第4章では、類似商標の分類ごとの類比判断傾向を事例に基づいて分析している。そして、第5章では、類比判断に影響を及ぼすその他の要因を分析・検討している。

本報告書は、商標権の取得および商標権に基づく権利行使に関する対策を講じる際の参考資料となっただければ幸いである。

なお、本調査報告書は上海金天知的財産代理事務所（旧名：上海恩田商標代理事務所）に委託して作成したものである。

ジェトロ上海事務所知識産権部

2012年3月